寿　都　町

美しい海づくり研究プロジェクト

第１回報告書

平成１５年９月

北海道技術士センター
地 域 活 性 化 分 科 会

分科会メンバー

	グループ	氏　名	技術士部門：専門	所　　属
1	海	畳谷　勝雄 ＊	応用理学：海洋、(総技監)	マットコンサルタント㈱
2	海	成田　稔　＊	建　　設：施工計画	ニシキコンサルタント㈱
3	海	番匠　義紘 ＊	水　　産：水産土木	日本データーサービス㈱
4	川	岡田　操　＊	建　　設：河川	㈱水工リサーチ
5	川	佐藤　隆一	農　　業：農芸化学	日本データーサービス㈱
6	川	二ツ川 健二	建　　設：土質基礎	北海道土質コンサルタント
7	山	板垣　恒夫 ＊	林　　業：森林航測	技術士事務所：森林航測研究
8	山	安田　伸生 ＊	林　　業：森林土木	北海道水産林務部森林環境室
9	都市・農	有山　忠男 ＊	建　　設：都市計画	㈱ライヴ環境計画
10	都市・農	伊藤　恒雄 ＊	農　　業：農村環境、(総技監)	内外エンジニアリング㈱
11	都市・農	今井　淳一 ＊	建　　設：施工計画	㈱ドーコン
12	都市・農	岩崎　元彦	農　　業：地域計画	㈱地域計画センター
13	都市・農	小町谷 信彦＊	建　　設：都市計画	北海道開発局　事業振興部
14	都市・農	橋本　昭夫 ＊	衛生工学：廃棄物	札幌市東区保健センター
15	都市・農	日浅　陽富	建　　設：都市計画	ノーステック財団
16	ファン	小野　孝　＊	情報工学：情報システム	北海道ＪＲシステム開発㈱
17	ファン	北越　正生 ＊	建　　設：河川、(総技監)	オオハシコンサルタント㈱
18	ファン	小林　幸男	水　　道：下水道	東洋コンサルタント㈱
19	ファン	柴田　登　＊	建　　設：トンネル計画	飛島建設㈱
20	ファン	宮崎　武志 ＊	化　　学：準会員	ＮＰＯ地熱発電を考える会

注）＊は、寿都町現地調査の出席者

海グループ報告

川グループ報告

森グループ報告

都市・農地グループ報告

ファンクラブ報告

現地調査結果報告書：海グループ

１．参 加 者　　番匠　義紘、　成田　稔、　畳谷　勝雄
２．日　　時　　２００３年８月２２日（金）、１４時～１７時
　　８月２３日（土）、　９時～１７時
　　８月２４日（日）、　８時～　９時
３．調査場所　　８月２２日
　　1).磯谷高地、2).浜中海岸生活環境保安林地区、3).弁慶地区
　　８月２３日
　　4).政泊海岸、5).政泊漁港地区、6).実験場前地区、
　　7).寿都漁港区域地区、8).尻別川河口地区、9).能津登海岸、
　　10).磯谷海岸、11).鮫泊漁港地区、12).横澗漁港地区、
　　13).美谷・種前・有戸海岸地区、14).六条町・岩崎町海岸
　　８月２４日
　　15).砕石場展望地地区、16).法人の森地区

４．調査結果（現状と課題）

1)．磯谷高地

（現状）

３６０度の展望という大変に眺めと見通しが良い眺望地である。北は積丹半島と日本海、東は蛇行して流れる尻別川と羊蹄山、南は寿都市街地・寿都湾の一部・弁慶岬・狩場山・日本海が一望できる。

尻別川と羊蹄山の方向

（課題）

寿都町から蘭越町へ繋がる林道から分岐して登る旧寿都町営牧場の跡地であり、以下に示す課題が考えられる。

- 林道は蘭越町まで通過できない未開通路線である
- 林道は舗装道路ではあるが道幅が狭い
- 林道分岐点から磯谷高地までは牧場内を通過することとなり、現状では道路がなく急勾配である
- 磯谷高地眺望点では、平均風速８^{m}/ｓと常時風が強く吹いており、長時間滞在は難しい
- 眺めが良いだけで集客が見込めるか

観光インフラとしての道路と駐車場整備は重要であるが、旅行者の行動形態や利用層の差別化を考慮した場合、眺望点まで道路を整備すべきか徒歩による登山道とすべきかを今後検討したい。また、道路途中にある授産施設の入居者に対する通行安全性も考慮したい。そして眺望地点での風速の強さに対しては、簡易的な風除機能が整った展望台の設置が望まれる。

次に眺望を満喫した後、どのように寿都町内へ客を誘導するか、地元消費をさせる

かを、具体的な施設整備と関連づけて考察すべきである。

寿都町としては、眺望点の下（国道と林道の分岐点）にバーベキューや蕎麦・ラーメンが食べられる簡易的なレストランを検討しているようであるが集客的魅力があるかを再検討すべきと考えられる。

2)．浜中海岸生活環境保安林地区

（現状）

海岸は一部階段式海岸護岸が整備され、背後の道路を現在整備中で完成間近である。沿岸の海は、沖出しの流れが部分的に強く、海底も砂や泥で方々に深みがあり、海水浴には不向きな海である。

林内は、ウッドチップ歩道が整備されているが枯枝や草が歩道上に溜まっている。

また、林内の展望塔はログハウス様式で建設されているが、入口ドアが壊れており、蝶番の故障で海側の窓は閉まらない。

林奥のパークゴルフ場は、有料（３００円）にも拘わらず高齢者や女性の利用者が多く成功例である。特にファッション性の良い女性が目についた。パークゴルフ場の向い側の芝地は整備中であり、キャンプ場の計画もある。

駐車場はパークゴルフ場から離れており、低い位置にあることから利用率は低く、ゴルフ場横の道路の両側（芝地）に駐車しているケースが多く見られた。

駐車場奥の沼地は、鯉や鮒が生息し手つかずの雑木林の様相を呈している。ただし、駐車場からの誘導用歩道（ウッドチップ歩道）が一部途切れていることから、沼の存在を認知させづらい。

パークゴルフ場を含む公園内には、１万本を越える苗木が直営で移植され管理されているが、下草の除草がなされていないことや苗木の保護柵が壊れており、現状では見苦しい区域もある。

階段式海岸護岸

林内のウッドチップ歩道

ログハウス様式の展望塔

パークゴルフ場と手前にある東屋

（課題）

浜中地区に展開される自然性豊かな健康増進型エリアと位置付けられる地域であり、以下に示す課題と対応策が考えられる。

- 海岸で整備中の道路では、将来的にも飛砂や波による打上げ砂により継続的な除砂工事が必要となり維持管理費の課題が考えられる。階段式海岸護岸の整備前は海岸防風林の存在で砂浜と海岸草原の発達した風光明媚な砂丘海岸であった。
  海岸護岸の整備により護岸下部には一部草原の出現は考えられるが、部分的な草原は見苦しさを与えかねない。対応策としては、飛砂防止柵や離岸堤の設置が考えられるが、現地の海浜草本の移殖による飛砂防止草原の創出が、維持管理費の費用対効果を考慮した場合には効果的である。
  いずれにしろ維持管理と景観重視をどのように解決するかを今後検討したい。
- 海浜と海の利用を促進したいが、海底地形や潮流の問題から海水浴は原則禁止とすべきであろう。しかし、夏場の林内散策者や公園利用者を考慮した場合、磯遊び的な足を海に入れる程度の利用を考慮すべきである。これには、浅海に網やロープで海遊び区域を指定し、指定した海にアサリ貝などを移植して採らせるなどして区域外の遊泳を防ぐ手立てとする。
- 林内の歩道は定期的に掃除をして、綺麗さを保持している努力を印象付けることが必要であり、展望塔は入口ドアや窓は取払ってもよいと考えられる。使用しない冬季間は、板を打ち付けるなどして老朽化を防いではどうか。
- パークゴルフ場は、後志管内や全道大会を催すなどして知名度アップを行い、より多くの町内外利用者の拡大を図る。大会時には地域の特産品の販売コーナーを設け、地元紹介と物販促進の効果を高めることが必要である。
- パークゴルフの浸透は女性ファッションの向上に寄与することから、町内の衣料品店ではパークゴルフコーナーを設け販売増強に努めるべきであろう。
- 駐車場は、高齢者や身体的弱者に限定した近距離の空地を利用した駐車場整備、及び現状の駐車場に対しては、スロープと低段差の階段を整備しアクセスの改善を図るべきである。
- 沼地は、大人や子供に対しても魅力的な空間である。沼地には釣り桟橋を２ヶ所ほど設置し楽しめるようにしたい。また、釣魚のリリース用に、沼に近づける歩道を数箇所整備すべきである。そして、駐車場から沼まではウッドチップ歩道を整備し誘導性を高めるべきである。
- 海・海岸・保安林内・パークゴルフ場・公園・沼を総合的に利用者に案内でき、管理するセンターハウスと人員、機材の配備が求められる。センターハウスの整備に際しては、浜中地区の将来的利用を総合的に再検討し、適切なコンセプトの見直しも必要と考えられる。

3)．弁慶地区

（現状）

日本海と対岸の美谷海岸や島牧方面が見渡せる眺望点であるが、

また、駐車場横にある売店は、缶ジュースなど店外の自動販売機の売上がある程度で売上は少ないようであり、立寄り者のほとんどがトイレ利用者である。

弁慶岬

（課題）

- すぐ前面にあるＮＴＴアンテナは、人工構造物であることから自然的な景観を阻害しているため、背後の国道奥の丘陵地に移設すべきである。
- 売店は、目玉商品の選定など扱い品目の見直しや陳列の配置見直しが必要。また、自然公園内であることから看板の規制があるが、売店内に何があるかの案内が必要。客を店内に誘導する工夫が欠けている。

弁慶岬のＮＴＴアンテナ

4)．政泊海岸

（現状）

政泊海岸とは、清掃センター前の海岸を示す。海岸は、以下の３区域に分類できる。

①．弁慶茶屋～弁慶茶屋北側岩礁岬までの砂利と砂浜海岸

②．弁慶茶屋北側岩礁岬～民間キャンプ場までの岩礁と断崖海岸

③．民間キャンプ場のある砂利と砂浜海岸

①．弁慶茶屋～弁慶茶屋北側岩礁岬

「弁慶茶屋」

国道から未舗装道路を下って海岸まで道路が整備されている。かつては、海水浴客が多くいたとのことであるが、現在は案内看板があるわけでもなく、土地感のある人達だけの利用となっているようである。かつての海水浴客のための「弁慶茶屋」の建物が残っている。海岸背後は１０数年前まで砕石場として利用されており、工事用道

路が今も残っている。

海岸は、弁慶茶屋前の一部に砂利と砂浜があるが、それ以外の海岸は岩礁帯と断崖が続いている。海岸一帯は、ニシン漁が盛んに行なわれた場所であり、このため土地地権者は民間人が多く、民有地のため積極的に公的な開発ができない地域でもある。海域は、岩礁が点在する波の高い海域で、ウニ・アワビ・岩ノリ・フノリの好漁場となっている。それゆえ、「凪」の時には、密漁の好適地となる。

汀に捨てられた畳

弁慶茶屋～北側岩礁岬までの海岸ごみの種類は、キャンプ後のごみによるものが目立った。畳、キャンプ用コンロ、コンロ用網、炭、ペットボトル、ビール缶、テントの張用土嚢、段ボール箱、花火などである。これらのごみの内、一度しか利用していないように思われる新しいごみが多くあったことから、キャンパーの使い捨て感覚があるように思われる。

テントの張用土嚢

弁慶茶屋北側岩礁岬～民間キャンプ場までの岩礁と断崖海岸のごみ種類は、断崖の切れ込み区域に、波の打上げによると思われる大木や網、漁網ロープなど大型ごみが多い。この場所は旧砕石場用道路の終点に当り、外から持ち込まれたごみの可能性も否めない。いずれにしろ、人が近づかない場所であるが、ごみが大型のため目立つ場所である。

段ボール箱、花火

民間キャンプ場のある砂利と砂浜海岸のごみは少なかった。キャンプ場の土地所有者は、現在地元には不在とのことであるが、民地故にむやみにキャンパーが入り込まないものか、管理人が清掃することによりごみが片付けられていると考えられる。

②．弁慶茶屋北側～民間キャンプ場

また、当海岸の特徴として、民間キャンプ場南側の湿地帯が挙げられる。砕石跡地の崖と海岸までの平坦部に、地下水の停滞によると思われる湿地が広く広がっている。

この湿地の将来的な広がり方は、地形的に興味を引くものになるのではないであろうか。

民間キャンプ場

民間キャンプ場南側の湿地帯

（課題）

政泊海岸沖は、ウニ・アワビ・岩ノリ・フノリの好漁場となっている。

岩ノリは１～３月に２０００円／kg 前後、フノリは３～４月に１０００円／kg 前後の価格がつく。１人１日当り、多い人で１０kg 程度採取できるため、漁業者の主婦の貴重な副業となっている。また、岩ノリを利用した干し海苔（ドンザ海苔：畳１畳大の大きさで、１枚４～５，０００円のものもある）は、供給量が不足し飛ぶように売れる。そして、ウニ・アワビは主漁獲対象であり、漁業経営に欠くことのできない魚種である。

上記のような貴重な水産資源が存在する当地区での観光客（主にキャンパー）の侵入に対しては以下に示す課題が考えられる。

- 海水浴客やキャンパーによるウニ・アワビの密漁は、地元漁業者の経営に多大な影響を与えている。
- 当海岸には、土地感のある一部の海水浴客やキャンパーが入り込んでいると思われるが、ごみの後始末はお粗末であり、当海岸を海遊びに広く開放するか否かが課題となる。
- 景観的には積丹半島に匹敵する美しさを持っている。
- 民有地が多いことから有料海浜とすることも考えられ、有料化によるごみの散逸防止が期待できる。
- 湿地帯のある草原は、将来的にどのように遷移していくかを見守る貴重な場所と考えられる。
- 冬場のため、ノリ採取の人々は国道から雪原を掻き分けて浜を上り下りしている現状の中、岩ノリ，フノリを寿都の名産品として量産化を図り、寿都の漁業振興および観光振興ツールとして活用する方策を検討する。

5)．政泊漁港地区

（現状）

政泊漁港は弁慶岬の真下に位置した、漁船数３隻程度のこじんまりとした綺麗な漁港である。しかし､漁港外には広大な平磯が発達しているため、３～５月や９～１０月は､｢ほっけ｣釣りのメッカとなる。釣り客が持ち込む、釣り餌、弁当、缶飲料、釣具の放棄が平磯や漁港内にごみとして残される。

政泊漁港

また、トイレがないため、漁港内の作業小屋裏で排便が無造作に行なわれ、衛生面での心配と処理に対する苦労が生じている。

このため、バイオトイレを町で設置した経緯があり、最近は排便は少なくなってきているが、皆無ではないようだ。

漁港内のバイオトイレ

また、ごみの投棄は漁港内の一画に多く見られたが、人間の魂という信仰心を利用した方法として「魚魂」と記した木製の記念碑的な看板をこの一画に設置したところ､ごみの投棄はなくなった。

ごみ投棄場所建った看板「魚魂」

（課題）

- 「ごみの不法投棄禁止」を看板で直接的に訴えるよりは、好結果を招いたこの「魚魂」と記した人間の魂に訴える方法を、他の分野、地区での参考例として検討したい。

6)．実験場前地区（東海大学寿都臨海実験場）

（現状）

旧国道の突き当たり（終点）地区に位置し、東海大学寿都臨海実験場であることから入口は施錠され進入禁止となっている。現在は、漁協のホタテ・カキなどの水槽に使用された建物となっており、臨海実験場としては利用されていない。

海岸はコンクリート直立護岸の海側に砂浜が細く伸び、沖合いは岩礁地帯と平磯が広がる。

海岸ごみは、突堤基部にポリ系ごみが目立つが多くは無い。平磯は岩ノリ・フノリ漁場であるとともに「ほっけ釣り」のメッカである。砂浜海岸の沖はアサリ貝、岩礁地帯はアワビ・ウニ漁場となっている。

基本的に東海大学という民有地で入門規制を行なっているため、不特定多数の進入は少ないが、平磯の釣り客のごみ投棄が問題となっている。

（課題）

- 民有地内への入門規制を施錠で行なうことが効果的な例といえる。ただし、釣り客のマナー向上の仕組みを作る必要がある。

7)．寿都漁港漁港区域地区

（現状）

寿都漁港の漁港区域地区は以下の２区域に分類できる。

■．旧国道沿道の漁業集落がある集落裏の海岸

■．寿都漁港内

旧国道沿道の漁業集落がある集落裏の海岸は、前記の実験場前地区から続くコンクリート護岸で区切られた海岸である。このコンクリート護岸は、先の日本海中部沖地震時の津波に対しては効果的であった。しかし、護岸屈曲部では、津波の越波やコンクリート護岸の崩壊が見られたとのことである。

海岸は、一部砂利海岸も見受けられるが、概して浜は細いか護岸前面に直接海面が接しており、沖合いは岩礁帯である。

漁業集落の裏には作業小屋が多くあり、また沿道には水産加工の事業所も多い。このためコンクリート護岸の海側直下にウニ殻の投棄や、加工場からのものと思われる海藻の投棄も目立つ。また、テレビなどの家庭系大型ごみも見受けられた。

ただし、空地は畑に利用されたり、花壇として花が植えられたりして景観として綺麗な箇所も目立った。

寿都漁港内は、漁港という機能のため、ごみは整理され概して綺麗である。

防波堤が延伸されており、防波堤から見る寿都市街地や山並みは、また違った雰囲気を醸し出し、貴重な景観スポットといえる。漁港内には、整然と漁船が係留されており、港町の風情を漂わせている。

旧国道沿道の集落裏の海岸と「廃船」

護岸直下のウニ殻や大型ごみ

家庭系大型（テレビ）ごみ

寿都漁港から見る寿都市街地や山並み

（課題）

- 旧国道沿道の集落裏の海岸でのごみ投棄は、景観面や悪臭が漂い衛生面において醜悪なことから、住民による「海のごみゼロ運動」の推進を検討したい。
- 港内の防波堤から眺める市街地や山並み、及び漁船の風景など、港町ならではの眺望を満喫するため、防波堤付近への散策路の設置なども検討したい。
- 東海岸に放棄されている木船の廃船（頭部のみ）の由来が特徴的である。かつて、政泊海岸で焼却処分をしようとした木船が、火を逃れ沖に流され、元あった現在投棄されている船着場に無人で戻ってきたとの由来である。
  この廃船を何らかの記念碑的扱い（海の守り神のオブジェ）を行なって、海の守り神が寿都に居ることのピーアールに利用したい。

8)．尻別川河口

（現状）

寿都町と蘭越町との境界は、尻別川河口の蘭越町港地区にあるトンネルとしている。

しかし、寿都漁協は蘭越町を含んでおり、尻別川河口の港地区の漁業者も寿都漁協組合員となっている。尻別川河口には、小さな入間を持った漁港と護岸を兼用した岸壁が漁港の対岸にある。

尻別川は国内有数の清流河川であり、サクラマスの遡上は日本一で、サクラマスの４～５kg の大型種(尻別川純血種)が多いことも特徴的である。しかし、一度大雨が発生すると、濁水と流木で海面漁業（定置網、昆布漁場など）に多大な影響を及ぼす。流木のほか、農業系のごみなども海面へ流出し、ごみ回収に苦慮している。

特に、河口に隣接する能津登地区への被害が大きい。

尻別川河口（上流部を望む）

尻別川河口（海側を望む）

（課題）

- 河川流出に由来する海岸漂着ごみ、漁業用施設に及ぼすごみの影響は多大なものがある。一度海上へ散逸したごみの回収は、多大な労力と費用を要することから、出水時にあわせて瞬時に作動でき、流出河川の流速・流量に影響を与えない程度の、フィルター状、格子状、ライン上のゴミ回収装置を河口部に設置できないかを検討したい。
  これは、尻別川のみでなく、朱太川に対しても効果的なものとなる。

9)．能津登海岸

（現状）

尻別川河口南側の岩礁帯から、南側の島古丹の大黒ケ沢川河口までは砂浜が広がる。

能津登海岸は、この砂浜地帯の最北部集落であり、砂は砂鉄分を含み黒い海岸砂である。

能津登地区は、沖合遠くまで岩礁が広がり、２年コンブ（利尻系２年コンブ）が繁茂する特異な地区である。また、スガモなどの海藻繁茂も顕著、沖合いまで黒々とした海面が続いている海域である。しかし、漁業者の高齢化や少人数化により、２年コンブの採取量が確保できず、近年は漁獲していないとのことである。ただし、自家消費のための採取や拾い昆布漁は行なっている。また、大型ウニが漁獲できることでも有名であり、ウニ資源の枯渇防止、及び海藻が多くタモ網が使いづらいことから、２本ツメでのウニ挟み獲り漁が今でも行なわれている。

スガモなどの植物系ごみは目立つが、家庭系・産業系のゴミは目立ってない。これは、町内会で春と夏の２回、海岸清掃を実施しているためである。また、風向きを考慮し、逐次海岸ゴミを海岸で焼却処理しているとのことである。

能津登海岸では、海藻が多いこと、国道に面して危険なこと、駐車場がないこと、及び密漁防止の観点から、海岸を海水浴には開放していない。

また、当集落の特徴は国道海側に防雪柵が長く林立して設置されていることである。１０数年前までは木製の防雪柵が並んでいたが、国道の拡幅により防雪柵はスチール製に変った。

また、当地区は潮風が強く、飛沫塩分による家屋保護のため、壁面や屋根の総てをコールタールで真っ黒に塗りつぶした家屋が今でも数件ある。このような強風集落のため、防雪柵も当然必要であるが、冬季以外の時期に支持ポールが残っていることが、景観を阻害している。防雪板と支持ポールは冬季以外は取り外すことで、国道管理者と合意していたが、集落の高齢化と過疎化により、２０数 kg ある支持ポールの取り外しは、肉体的にきついことや、無人化した家の分までも取り外しできないことから、３年前から支持ポールのみが林立する結果となった。

能津登海岸（寿都市街地側を望む）

２本ツメのウニ挟み獲り漁具

スガモなどの植物系ごみ

防雪柵の支持ポール（岬裏が尻別川）

（課題）

能津登地区では、クリーン意識が町内で徹底している印象を受けた。また、ウニ・アワビ資源も意識的に保護しており、参考例となる。これより、当地区の課題としては、以下に示すことが考えられる。

- 防雪柵の支持ポールの林立を景観阻害要素と考えるよりは当集落の特徴と考え、積極的に景観利用する方向で検討する。
- 漁家の高齢化，過疎化による海岸清掃や支持ポールの取外し作業等の維持が困難になりつつある。
- 斜路前の国道のガードワイヤー（ガードロープ）の隙間が２箇所で斜路位置と合致していない。（長井様宅前）漁獲物の積降用トラックが入れない、冬の除雪（手押しのスノーダンプによる）がやりづらいなど不都合を生じている。ガードワイヤーの位置変更が必要である。

10)．磯谷海岸

（現状）

磯野海岸とは、能津登海岸南側の島古丹の大黒ケ沢川河口から鮫泊漁港付近の大上の川までの海岸を示す。当海岸は、横潤漁港までは直立コンクリート護岸へウォール擁壁へ直接波が当る無海浜地帯が続き、横潤漁港から鮫泊漁港付近の大上の川までは岩礁海岸で浜は少ない。

当海岸は概して海岸ごみは少ないものであった。これは、能津登集落と同様に、磯野集落での清掃活動によるものと考えら、クリーン意識が町内で徹底している印象を受けた。

（課題）

- 風の強さをアピールする景観形成施策を検討する。（能津登地区と同様）

11)．横潤漁港地区

（現状）

漁港奥の岸壁水際線付近に天然の岩ガキの付着が岸壁に沿って大量に見られる。

また、今年春には「やりいか」の大群が港内の押し寄せた。

港内にはプレジャーボート専用の船揚場（斜路）が漁船用と区分して独自に設けられている。港内のごみは少ない。

横潤漁港（プレジャーボート専用斜路）

（課題）

- 岩ガキ発生のメカニズムの解明と利用方策を検討する。

12)．鮫泊漁港地区（第１種鮫泊漁港）

（現状）

鮫泊漁港全景

小型船外機船(やりいか定置漁業：石田様所有）１隻のみ係留する漁港である。

港内水深は１m前後、岸壁水深は５０㎝程度、底質は岩盤と玉石であり、岸壁係留できない漁港である。岸壁は一部天然岩礁が露出している箇所がある。

明治時代、私人が建造した漁港であり、その後道庁が管理を引き継いだ経緯がある。

いわゆる袋澗と呼ばれる小漁港であり、形状は約２０m真四角、防波堤、岸壁の基礎部は石組になっており、文化財的要素をもっている。

改修により石組岸壁や防波堤の上部がコンクリート補強されているため、色合い的にチグハグさを呈している。

利用者（石田様）も多用途利用に同意されていることから、鮫泊漁港の多用途利用を今後検討したい。

（課題）

● 周辺を含め子供たちの磯遊び場、海水風呂、プールなど、種々検討をプロジェクトで検討することとする。

13)．美谷・種前・有戸海岸地区（歌棄海岸）

（現状）

美谷・種前・有戸海岸

美谷・種前・有戸海岸地区とは、寿都湾を形成する湾曲部から浜中海岸までの区域を示す。

海岸部は岩礁や平磯が発達し、コンクリートト護岸が殆どない自然海岸である。

風向きと海岸の位置関係から、漂着ごみがやや目立つ海岸である。

国道と海岸の間には、イタドリが繁茂しており、ドライバーから海が見えない状況である。近年、一部海岸で密漁防止用にイタドリの刈り取りを行なうようになった。

当地区は湾内の入口に当ること、及び浜中地区や寿都市街地を望める地域であることから「寿都へきた！」という印象を抱かせる区域でもある。

当地区から、浜中地区や寿都市街地を眺めた場合、「白砂青松の海岸」というより、「緑の海岸」という印象を与える。

（課題）

- 磯野海岸のような町内的取組みによる清掃事業の実施と、イタドリの刈り取りが必要。
- 「緑の海岸」と「白砂青松の海岸」を織り交ぜた、寿都町海岸の呼称を検討する。

14)．朱太川河口地区

（現状）

尻別川と同様に一度大雨が発生すると、濁水と流木で海面漁業（定置網、昆布漁場など）に多大な影響を及ぼす。流木のほか、農業系のごみなども海面へ流出し、ごみ回収に苦慮している。

また、海岸ではないが河口部の国道から河口部がイタドリの繁茂により見えない箇所が多くある。蛇行する河川の姿が際立って美しい自然河川の朱太川を見せるには絶好のポイントである。

朱太川河口地区（浜中海岸から望む）

（課題）

- 河川流出に由来する海岸漂着ごみ、漁業用施設に及ぼすごみの影響は多大なものがある。一度海上へ散逸したごみの回収は、多大な労力と費用を要することから、出水時にあわせて瞬時に作動でき、流出河川の流速・流量に影響を与えない程度の、フィルター状、格子状、ライン状のゴミ回収装置を河口部に設置できないかを検討したい。
- 適切なイタドリの刈り取りが必要。

15)．六条町・岩崎町海岸

（現状）

寿都漁港南側の旧国道に面した沿道集落地域である。

海岸は自然海岸とコンクリート護岸海岸、及び階段護岸海岸が混在する。沖合いは平磯が発達した岩礁海域である。

当海岸の内、２箇所に平磯上に乗った消波ブロックが並んでいる箇所がある。

これは、道路海側に水産加工場があり海岸が自然海岸のため、水産加工場を守るために海岸保全用に消波ブロックを設置したものと考えられるが、周辺景観とは完全にかけ離れた様相を呈している。

海岸保全用の消波ブロック

（課題）

- 機能重視の観点を変えて、消波ブロックの沖合移設と潜堤への変更、若しくは自然石利用の階段護岸に変更すべき。
- 消波ブロックの設置箇所の海岸にイタドリの繁茂があり海が見えないことから、イタドリの定期的な刈り取り作業が必要である。

16)．砕石場展望地地区

（現状）

展望地は、弁慶岬から寿都湾全体、積丹半島が一望できる絶好な眺望地である。

展望地は元来町有地であるが、砕石場として認可したこと、火薬など危険物を砕石場が保有すること、及び侵入道路が砕石工場内の１本しかないため、一般人が進入できない状況である。

砕石場展望地からの眺望（寿都湾）

（課題）

- 侵入可能な曜日や時間を決め、砕石工場と協議して一般人に展望を可能にすることが今後求められる。

17)．法人の森地区

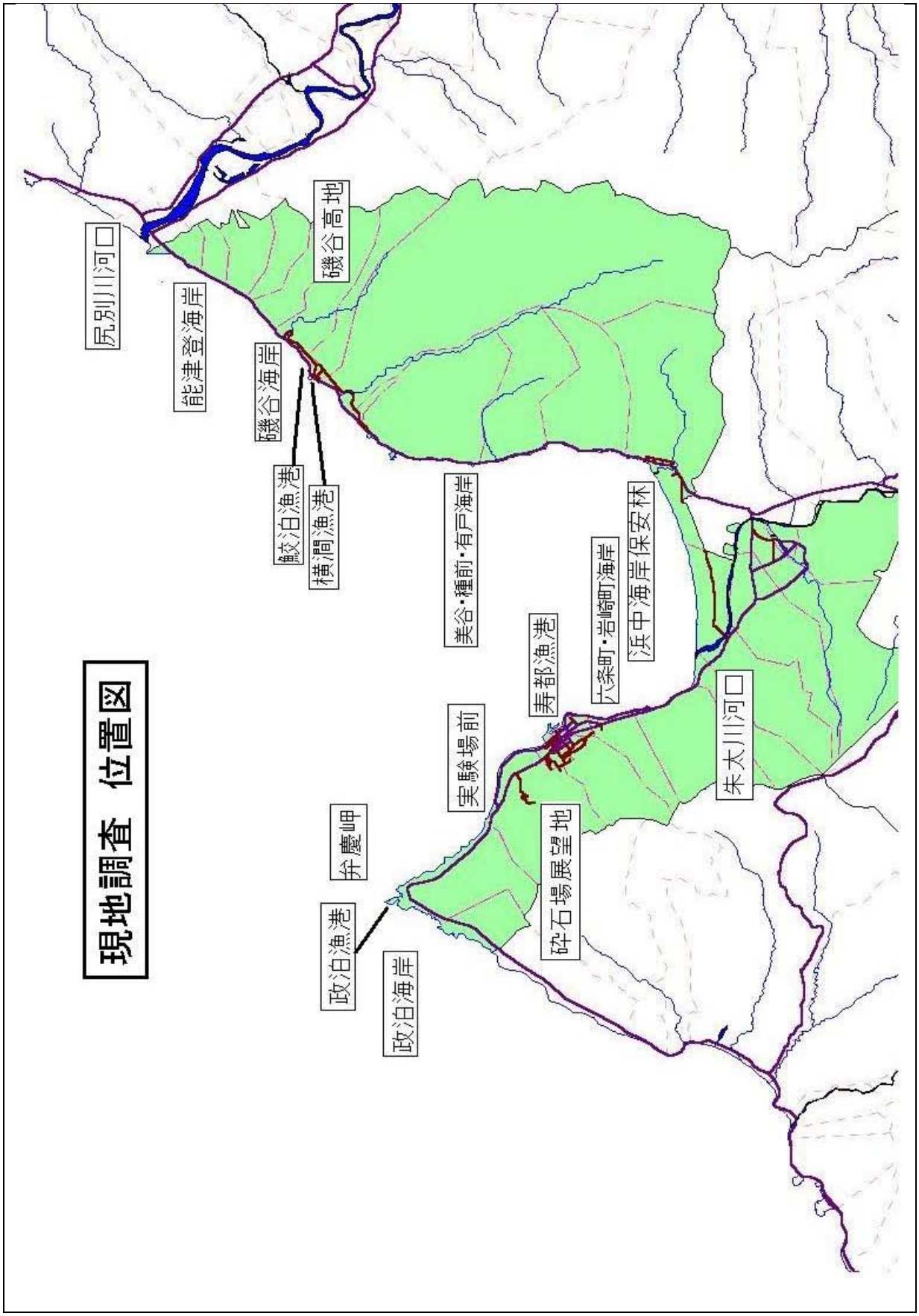
（現状）

砕石工場が国有林内の砕石掘削許可を受ける代替として、費用を支出し１４ヘクタールの国有林の利用を５０年間にわたり許可された森林である。

森林内の遊歩道、展望小屋、樹木名称の看板設置、キノコ菌の散布、林道の簡易舗装整備などが実施されており、法人と地域が一体となった利用を検討中である。

（課題）

- 町内の子供達を対象とした森林内の野外学習スポットとして検討中であるが、「熊」対策や、「スズメバチ」対策、及び町外者によるキノコの密漁など、課題が山積している。


現地調査　位置図
尻別川河口
能津登海岸
磯谷海岸
磯谷高地
鮫泊漁港
横澗漁港
美谷・種前・有戸海岸
寿都漁港
六条町・岩崎町海岸
浜中海岸保安林
実験場前
弁慶岬
政泊漁港
政泊海岸
砕石場展望地
朱太川河口

５．課題の整理

現地調査結果から得られた課題を調査地点ごとに整理し下表に示す。

地　区	課　題	検討項目	利用用途
1). 磯谷高地	林道整備 展望台、駐車場の整備 観光客の市街地への誘導	車両用道路と登山道の選択 防風対策 レストランの可能性	観光利用 商業利用 健康利用
2-1). 浜中海岸保安林 （海岸地区）	飛砂防止工事 海水浴は原則禁止	維持管理費 磯遊び的海面利用	観光利用
2-2). 浜中海岸保安林 （林内地区）	歩道上のごみ対策 展望塔の破損	美化、自然性の保持（綺麗さ） 入口ドアや窓の取払い	観光利用
2-3). 浜中海岸保安林 （公園内地区）	パークゴルフ場の知名度アップ 女性ファッションの向上 駐車場整備 センターハウスの維持	パークゴルフ大会の開催 町内の衣料品店の販売増強 高齢者や身体的弱者限定の駐車場 公園までのアクセスの改善 適切な公園管理コンセプトの見直し	観光利用 商業利用 健康利用
2-4). 浜中海岸保安林 （沼地区）	遊ぶポイントがない 駐車場からの誘導性	桟橋・リリース場所の整備 ウッドチップ歩道の整備	観光利用 学習利用
3). 弁慶地区	ＮＴＴアンテナの景観阻害 売店の集客が少ない	国道奥の丘陵地へ移設 売店内への誘導性向上	観光利用 商業利用
4). 政泊海岸	ウニ・アワビの密漁被害 ごみの後始末 湿地帯のある草原 岩ノリ，フノリの保護	海遊び場としての開放の賛否 利用料徴集の可能性 遷移の見守り 寿都名産品として量産化	観光利用 水産業利用 学習利用
5). 政泊漁港 6). 実験場前地区	ごみの後始末 釣り客のマナーが悪い	人間の魂に訴える方法：「魚魂」 釣り客のマナー向上対策	観光利用
7). 寿都漁港	ごみ投棄と悪臭 港から眺める市街地や山並み 木船の廃船	「海のごみゼロ運動」の推進 防波堤への散策路の設置 海の守り神のオブジェ	観光利用 衛生管理
8). 尻別川河口 14). 朱太川河口	河川流出による海岸漂着ごみ	ゴミ回収装置の開発と設置	水産業利用
9). 能津登海岸 10). 磯谷海岸	支持ポールの林立 高齢化による海岸清掃の困難性 国道のガードワイヤー場所の不備	積極的な景観利用 高齢化集落の維持管理体制整備 ガードワイヤーの位置変更	観光利用 生活維持
11). 横澗漁港	岩ガキの繁殖	岩ガキ発生メカニズムの解明	水産業利用
12). 鮫泊漁港	漁港利用漁船の減少	漁港の多目的利用	観光利用ほか
13). 美谷・種前・有戸 海岸	ごみの後始末、イタドリの繁茂 「緑の海岸」と「白砂青松の海岸」	ごみ処理とイタドリの刈り取り 寿都町の海岸の呼称検討	観光利用 水産業利用
15). 六条町岩崎町海岸	消波ブロックの景観阻害	沖合移設と潜堤への変更	観光利用ほか
16). 砕石場展望地	展望地への侵入が不可能	展望地への侵入許可	観光利用

現地調査は、１日目（２２日）が片岡町長・畑谷水産課長・東野商工観光課長・堀農政課長の同行、２日目（２３日）は、畑谷・堀両課長の同行、３日目（２４日）は、蛯沢組：蛯沢専務の同行で行なった。

役場幹部が同行されたことから、１日目の調査地点（磯谷高地、浜中生活環境海岸保安林、弁慶岬）は、寿都町が「まちおこし拠点」として当地域の開発可能性評価を我々に期待していると考えられる。２日目は寿都町が我々の調査に対して協力していただいた、３日目は町内民間有志からの協力と考えられる。

上記の寿都町や町民有志の協力体制のあり方から、今後我々が調査結果の評価・解析を行なうに当っては、真剣に検討することが必要になると考えられる。

つまり、観光インフラの新規整備（観光拠点の開発行為を伴うもの）と既存資源・施設の改善というハード的要素を、寿都町という地理的要因と産業形態や観光客の動向という観点から評価しなければならいことを意味している。

このことは、大人口集積地の札幌から１５０Kmという中途半端なロケーションにある寿都町においては、観光入込み数の急激な増大はあまり期待できないものと考えられる点を考慮し、ハード施設建設に対する投資効果（費用対効果）を慎重に行なうことが求められることである。

上記の考慮は次章で検討することとし、本章では調査結果からの課題検討のフレーム分けを示すことする。

調査結果からは以下に示す９区分のフレームに区分できる。

①．インフラ整備（新規ハード）　　：新規にハード施設の整備を検討するもの
②．インフラ整備（既存施設の改善）：既存施設の改善で効果出現を検討するもの
③．商業の推進　　：課題克服が町内の商業面で効果を発揮すると考えられるもの
④．水産業の推進　：課題克服が町内の水産業で効果を発揮すると考えられるもの
⑤．環境美化　　：町民全員が知恵を出し合い協力して行なう「海のごみゼロ運動」、「釣り客のマナー向上対策」、「イタドリの刈り取り作業」、「自然性の保持」や、行政と協力して行なう「ゴミ回収装置の開発と設置」などで環境を美化することにより観光面やまちづくり面に効果を発揮すると考えられるもの
⑥．観光的特徴の推進　：寿都町独特の地域的特徴を演出することにより観光面で効果を発揮すると考えられるもの
⑦．水産業と観光の融合：密漁と海水浴やキャンプ場利用という相反する地域利用を町民間で協議することにより、町民のコンセンサスを共有する結果生まれるまちづくりに効果を発揮すると考えられるもの
⑧．地域学習の推進　　：子供を中心とした学習面で効果を発揮すると考えられるもの
⑨．総合的コンセプトの見直し：まちづくりを考慮した総合的なコンセプトの見直し

尚、上記の区分は各々が有機的に結びついていることから、それぞれ単独の課題克服で解決できない面があることに留意しなければならない。

下表に、課題検討のフレーム区分を示す。

寿都町：美しい海づくりプロジェクト　　課題検討のフレーム区分表

区分項目	検 討 項 目	地区
インフラ整備 （新規ハード）	道路･駐車場整備、展望台、新規商業施設	磯谷高地
	鮫泊漁港の多目的利用	鮫泊漁港
インフラ整備 （既存施設の改善）	駐車場整備、展望塔の入口ドアや窓の取払い	浜中環境保安林
	桟橋･リリース場所の整備、ウッドチップ歩道の整備	浜中環境保安林
	ＮＴＴアンテナの移設	弁慶岬
	防波堤への散策路の設置	寿都漁港
	高齢化集落の維持管理体制整備	能津登･磯谷海岸
	ガードワイヤーの位置変更	能津登･磯谷海岸
	鮫泊漁港の多目的利用	鮫泊漁港
	消波ブロックの沖合移設と潜堤への変更	六条町岩崎町海岸
商業の推進	町内の衣料品店の販売増強（パークゴルフコーナー等）	浜中環境保安林
	弁慶岬売店内への誘導性向上	弁慶岬
水産業の推進	ウニ･アワビの密漁	政泊海岸
	岩ノリ，フノリの寿都名産品として量産化	政泊海岸
	岩ガキの着生状況の把握と特産品化の可能性検討	横澗漁港
環境美化	林道の美化、自然性の保持	浜中環境保安林
	人間の魂に訴える方法：「魚魂」、釣り客のマナー向上対策	政泊漁港、実験場前
	「海のごみゼロ運動」の推進	寿都漁港
	ゴミ回収装置の開発と設置	尻別川･朱太川河口
	ごみ処理とイタドリの刈り取り	美谷･種前･有戸
観光的特徴の利用推進	磯遊び的海面利用、パークゴルフ大会の開催	浜中環境保安林
	木造廃船を海の守り神のオブジェとして利用	寿都漁港
	防雪柵支持ポールの積極的な景観利用	能津登･磯谷海岸
	消波ブロックの沖合移設と潜堤への変更	六条町岩崎町海岸
	展望地への侵入許可	砕石場展望地
水産業と観光の融合	磯資源豊富な海岸の海遊び場としての開放の賛否	政泊海岸
	キャンプ･海水浴の利用料徴集の可能性	政泊海岸
地域学習の推進	湿地草原の遷移	政泊海岸
	法人の森の学習利用	法人の森
総合的コンセプトの見直し	センターハウスの維持	浜中環境保安林
	「緑の海岸」と「白砂青松の海岸」の呼称検討	寿都湾全域

６．海グループとしての美しい海づくりの基本方針（案）

寿都町には古くからの漁業文化に培われた、来てくれた人を大事にもてなすという人情深さがあり、道内でも稀に見る自然美の寿都湾を抱えている。

人的資源と自然資源に恵まれた寿都町であるが、高齢化や漁業資源の減少により経済の停滞が続いている。

この状況の中、寿都町民が一致協力し、徹底して美しい海づくりに取り組みことが、水産物の付加価値を高め、海の観光的魅力を高めることにつながる。つまり、「北海道で一番きれいな海岸を持つ町・寿都」として売り込むことが、最大の差別化戦略、マーケティング戦略となり、この結果として地域振興、産業振興の可能性が生まれてくるものと考える。

残念ながら寿都町は、大人口集積地である札幌から１５０㎞という中途半端なロケーションにあることから、観光入込みの急激な増大はあまり期待できない。

しかし、一度寿都町を通過した人達が「素敵な街だなあ」と感じ取り、再度訪問してくれるファンを作るまちづくりを行なうことが必要と考えられる。

この状況から、寿都町のまちづくりは、町民自身が町内で楽しみながら生活でき、満足でき、そして物心両面で豊かになれる街の創造を目指すものである。

町民全員でめざす豊かなまちづくりの結果が、来てくれた人々も満足してくれる街になるものと考えられる。このため積極的に多くの観光客を誘導することは避け、しっかりと地に足のついた、町民全体が豊かになれるまちづくりを行なうために、地域資源の見直しを海・川・森・農地・街の融合という視点から始め、資源の利用方法を町民全員で考えることとする。

以上より、寿都町の「美しい海づくり」は、町民全員が物心両面で豊かになるまちづくりを町民全員で行なうこと基本方針とする。

町民全員で行なう「美しい海づくり」こそが、寿都町を理解し好きになってくれる寿都ファンを作ることとなり、その結果がファンを拡大させ、水産物・水産加工品のイメージアップも実現できるように思われる。

そして、美しい寿都の海をどのようにＰＲしていくかも考えることとする。

キャッチフレーズ

自然豊かで人情味のあるハツラツとした寿都町：美しい海づくり
（畳谷案）

ホッとする故郷のかおり寿都町、母なる海、美しい海づくり
（番匠案）

7．海グループが取組む優先的施策（案）の検討

1)．優れた景観眺望スポットで立ち止まらせる駐車場の整備

寿都町の優れた眺望景観は、やはり寿都湾である。

弁慶岬や砕石場展望地のような上方から眺望できる地点の展開も必要であるが、寿都町を訪れる多くがドライバーであることを考慮すると、国道沿いに一寸止まって寿都湾の景色を満喫できる駐車場が必要と考えられる。

国道沿いで寿都湾を満喫できる地点は、岩内方面から来た時にパッと寿都湾が開け「寿都へきた！」という印象を抱かせる美谷・種前・有戸海岸であろう。ここから眺める海岸線は「緑の海岸」という印象も与え優れた眺望点といえる

次に寿都湾を満喫できる地点は、朱太川と寿都湾が一望できる樽岸海岸であろう。

また、磯遊びも楽しめる海に近い六条町・岩崎町海岸も候補として考えられる。

しかし、美谷・種前・有戸海岸は、ごみが多いほか、イタドリが繁茂しているため寿都湾が全望できないし、樽岸海岸もイタドリが繁茂している。

また、六条町・岩崎町海岸には、消波ブロクが道路のすぐそばに積まれている。

上記より、美谷・種前・有戸海岸と樽岸海岸での駐車場整備には、優れた寿都湾の眺望を満喫できるための、海岸ごみの清掃とイタドリの刈り取りが必要である。

イタドリの刈り取りは密漁防止効果もあることから、漁業者を中心とした町内会や町民有志のボランティア作業としてまず取り掛かることが必要ではないか。

六条町・岩崎町海岸の消波ブロクは沿線の住家や事業所の越波防災を考慮して設置されているものであるが、景観を考慮した場合、潜堤として沖合移設を検討するか、若しくは海岸の階段護岸への変更を検討すべきではないか。

綺麗な寿都湾の景観を満喫してもらうことが、寿都町を理解してもらうスタートとなると考えられる。

優れた景観眺望スポットで立ち止まらせる駐車場の候補地

2)．寿都独特の景観資源の利用推進

寿都独特の景観資源としては、以下に示す３地区の景観が特徴的である。

①．浜中生活環境保安林海岸（白砂の海岸）

②．寿都漁港（木造廃船）

③．能津登・磯谷海岸（防雪柵支持ポール）

これらの景観資源の積極的な観光利用を検討する。

①．浜中生活環境保安林海岸（白砂の海岸）

浜中生活環境保安林の海岸は、防風林を抜けて広がる寿都湾を一望できる白砂の海岸であり、特筆すべき景観といえる。しかし、海底の凹凸が激しいことや、沖だしの流れが激しいことから海水浴場としての利用は危険であり、海水浴は原則禁止とすべきであろう。しかし、夏場の林内散策者や公園利用者を考慮した場合、磯遊び的に足を海に入れる程度の利用を考慮すべきである。

これには、浅海に網やロープで海遊び区域を指定し、指定した海にアサリ貝などを移植して採らせるなどして区域外の遊泳を防ぐ手立てとする。

②．寿都漁港（木造廃船）

寿都漁港の東海岸に漁船の頭部のみ放棄されている木船の廃船が放置されている。

この廃船の由来が特徴的であり、かつて、政泊海岸で焼却処分をしようとした木船が、火を逃れ沖に流され、元あった現在の船着場に無人で戻ってきたとことである。

この廃船を何らかの記念碑的扱い（海の守り神のオブジェ）を行なって、海の守り神が寿都に居ることのピーアールに利用したい。

旧国道沿道の集落裏の海岸と「廃船」

このためには、廃船の保護と同時に、廃船周辺が集落区域であることから、寿都漁港を中心とした、歩いて見学できる散策路の整備が必要である。

③．能津登・磯谷海岸（防雪柵支持ポール）

能津登・磯谷海岸の沿線集落の国道に林立する防雪柵支持ポールは、寿都の冬季風浪の強さを物語る景観である。道内でも珍しい景観であることから、積極的に観光景観として利用したい。

また、当集落には飛沫塩分による家屋保護のため、壁面や屋根の総てをコールタールで真っ黒に塗りつぶした家屋が今でも数件ある。

防雪柵の支持ポール（岬裏が尻別川）

このような強風集落を一体化した景観と捉え、夏場には支持ポールの上に色とりどりの風車のミニチュアを飾るなど、見た人に強烈

な印象を与える工夫を行なう。

ただし、集落住民の高齢化と過疎化により、２０数 kg ある支持ポールの取り外し作業が集落内の住民では困難となりつつあることから、景観に配慮した支持ポールへの飾り付けや、防雪板の仮置き場所の選定やシートの設置作業などは、行政も協力できる体制を整えたい。

3). 海岸景観を阻害している消波ブロックの沖合移設と潜堤への変更

駐車場整備の項でも示したが、寿都市街地に近い六条町・岩崎町海岸に設置されている２ヶ所の消波ブロックが、周辺景観を阻害している。

当地域は旧国道ということもあり、町外者の通行が少ない場所であるが、寿都湾が一望でき、平磯が広く発達していて磯遊びも楽しめる、景観鑑賞と磯遊び体験をするには絶好の場所であり、寿都を代表する地域であると考えられる。

当地域は寿都漁港と市街地に近いことから、歩いて景観と磯遊びを体験できる区域と指定し、遊歩道を整備する。

消波ブロクは、沿線の住家や事業所の越波防災を考慮して設置されているものであるが、景観を考慮した場合、潜堤として沖合移設を検討するか、若しくは海岸の階段護岸への変更を検討し、より自然的な景観形成に努める。

また、イタドリが繁茂しているためイタドリの刈り取りを町内会や町民有志のボランティア作業として進めていきたい。

海岸保全用の消波ブロック

消波ブロックが無くなった景観

5). 寿都漁港防波堤への散策路の設置と海の駅の連携

寿都漁港は市街地の中心に位置し、現在防波堤の延伸工事が実施中である。

防波堤から見る寿都市街地や山並み及び水平線は、また違った雰囲気を醸し出しており、貴重な景観スポットといえる。

漁港内には、整然と漁船が係留されており、みなとまちの風情を漂わせている。

みなとまちの風情を楽しみながら、山並みや水平線のスカイライン望める防波堤に散策路を設けたい。

散策路は、漁港機能の障害になる時間帯や風浪が激しい時間以外は侵入を制限するなどの利用方法を検討する。そして防波堤には落下防止のための柵を設置し、安全性を確保する。

漁港内の散策路整備は、前記した廃船（海の守り神のオブジェ）周辺や六条町・岩崎町海岸の散策路整備と有機的に結び付けることにより、現在構想が進められている「海の駅」を拠点とした市街地の商業的・観光的な活性化に結びつくものと考えられる。

以上より、寿都漁港を中心とした市街地周辺は貴重な景観資源となり、賑わいの原点となる可能性が高いと考えられる。

6)．鮫泊漁港の多目的利用

7)．景観が素晴らしい政泊海岸の活用

☆　散策路の整備

弁慶茶屋から民間のキャンプ場までの間に散策路を設け、町民の憩いの場とする、人が入ることによりある程度密漁防止にも繋がる。

整備方法としては、町民あるいは希望する外部者による手づくりを基本とする。

１m程度を単位に、必要な石を買ってもらいそれを敷き詰めてもらう（マイロード作戦）。

施工箇所には、氏名を彫った石等を埋め込む。

外灯、ベンチ等は町で整備する。完成に合わせ海岸の清掃を行う。

☆　キャンプ場の整備

民間のキャンプ場は、活用する必要があり、整備について町との協議を進める。

また、キャンプ場近くの、海岸を海とのふれ合いの場として、有料で開放することとし、夏は、ウニ・アワビ、冬はふのり・岩のりの採取体験の場とする。

なお、フノリ・岩ノリ等の小型海藻類については、着生に有効で採取が容易なことを実証する試験礁を設置する。併せて、採取を効率的に行う簡便な器具の開発も行う。

8)．美しい海岸を保つための「海のごみゼロ運動」の推進

寿都町内でごみの投棄が目立つ場所は、釣り客が多い政泊漁港、実験場前海岸の磯場、海水浴やキャンパーが多い政泊海岸、漁業作業場の多い漁港北側集落の裏海岸、及び美谷・種前・有戸海岸である。

これらの場所は、基本的に人家の少ない場所であり、人間が少ない場所にごみは投棄される傾向がある。

裏返して言えば、人家がある集落地域は、町内会の清掃事業が徹底されており、概してごみは少なく綺麗な街並みと言える。

この傾向を踏まえ、町民による「海のごみ０運動」は、人家周辺とともに、人家の少ない場所での清掃作業が重要と言える。

人家の少ない場所でのごみ投棄原因者は町民でない場合が多く、町民以外の投棄によるごみを町民が清掃するという、不合理さは否めない。

このためには、ごみ持ち帰り作戦や、ごみ箱の設置（ごみ箱の撤去）など、町民全員によるの「海のごみゼロ運動」と啓蒙活動が必要である。

また、町民自身もごみ投棄に配慮するとともに、政泊漁港での「魚魂」看板の効力などをバリエーションを変えた工夫が効果を発揮するものと考えられる。

2003.08.29
岡田　操

寿都町・美しい海作り研究　【川グループ】

～現地踏査報告（１回目速報）～

１．現地踏査の経緯

地域産業研究会　地域活性化分科会の「寿都町･美しい海作り研究」の一環として「川グループ」は朱太川を、その利用・環境・景観・歴史的背景などの側面から調査し、可能性のある提案を行なうものである。今後更なる補足調査・検討を加えて、正式な報告とするつもりであるが、今回の調査結果のみを踏まえた暫定的な速報としてここに御報告する。

「川グループ」は当初二ツ川健二・佐藤隆一・岡田操の三名で調査を実施する予定であったが二ツ川・佐藤の二名は都合により参加できず、岡田一名による調査となった。

調査一日目の 23 日はＲＳ研究会の出前授業（ふるさと学習・朱太川探検）と日程が重なったため、この行事に参加して後の調査となった。十分な準備もできず、地形図としては２万５千分の１の不鮮明なコピー一枚であったため調査すべき範囲がよくわからず、河口近くの栄橋から６キロ付近の丸山橋までを踏査した。

二日目の 24 日は他グループとともに「採石場高台」･「樽岸地区分収林」を視察後、山グループとともに歌棄地区・磯谷地区の林相を視察し、更に川グループは寿都町から黒松内町に至る朱太川を補足調査して日程を終了した。

２．現地踏査【川グループ】

1)．堤防

堤防は河口 0.2 キロ付近から実橋上流の 4.2 キロ付近まで連続している。一部分に流下能力を増すために造られたと思われる副水路との間に背割堤が施工されており、堤脚は蛇篭による護岸工が施工されている。また実橋周辺には改修時に取り残されたと思われる旧堤があり、二線堤状になっている。

4.2 キロより上流は掘り込み河道となっており、部分的にコンクリートブロックによる低水護岸が施工されている。

2)．河川敷と植生

朱太川の堤防から高水敷にかけては一般的な河川敷同様の植生に覆われており､調査時点では草刈などの手は加えられていない状況で、ここに入り、移動することは困難を伴う。

ここに生える主な植生はオオイタドリ･ヨモギ・ノラニンジン・エゾニュウなどの在来植生にオオハンゴンソウなどの外来種、ナガハグサなどの牧草地からの飛散種が混生している。旧河道(いわゆる三日月湖)にはヨシ・ガマ・ミゾソバ･アブラガヤなどの低層湿原植生が多く見られる。

3)．河畔林

朱太川の植生で特筆すべきは河畔林であろう。河畔林は今回の調査区間全域に渡って連続している。現河道と旧河道が水面でつながっているような場所を除いて、ほぼ切れ目無く連続しており、翌日確かめたところ黒松内町にまでつながっている。しかもこの連続した河畔林がほぼすべて「エゾノキヌヤナギ」一種により成り立っている。この柳

は葉の裏に細かい毛が生えていて白く見えるためこう呼ばれているが、葉の表裏のコントラストが美しく、町の景観上の財産と位置付けても良いくらいに思われる。

ただこの連続した河畔林のため対岸や水面を見渡せない、河岸へ近づくことが困難などのデメリットもある。

4)．水面と水深

調査日の朝に若干の降雨があり川は少し増水していたようだが、水面は穏やかである。「ふるさと学習」の中で子供たちと計測した流速は河口から 2 キロ付近で毎秒 15 センチから 30 センチ程度でゆったりした流れとなっている。また同地点での水深は河道中央部でも１メートル程度で見た目ほど深くない。ただし同地点右岸側は確認していない。また同地点の河床は砂礫質で長靴で入ってもズブズブともぐってしまう事はないようだ。

４キロよりも上流に入ると河床の粒径はより大きくなり、数センチから数十センチの礫となって水深も小さくなるため長靴でも容易に入れる状態となる。

5)．河川へのアクセス・視点場

朱太川へのアクセスはよくない。有堤区間では三つの橋（下流から栄橋・湯の浜大橋・実橋）の橋詰から堤防上か河川敷に入るしかない。堤防上の管理用道路は狭くオオイタドリに覆われている区間があるなど一般の通行には供せない。

堤防上からの視点は河畔林の樹高と同程度であるため、対岸はおろか現河道の水面も見渡せない。川を見渡せる場は橋の上ということになるが、三つの橋はいずれも歩道が無いか交通量が多く、適所とは言いがたい。

6)．プラスアルファ（砂政泊湿原）

二日目の視察途中、海グループの畳谷さんから「海岸に湿地がある」との情報を得、場所を教えてほしいと懇願して案内していただいた。

この場所は採石跡地で地表は平坦で、海面からは 10 メートルほどの標高があり海水の影響は直接には及んでいないようである。岩盤上の僅かな凹みに雨水や僅かな湧水がたまっている状態である。クサヨシやススキなどの高茎植生の間に、草丈が僅か 10～20 センチ程度の極めて矮性のエゾミソハギやフトイが生えている。ミズゴケの類は全く見られなかったが、徐々に湿地化していく過程上にあるようである。詳細な調査に基づけば湿原が発生する時間スケールを知る良い資料となるに違いない。

３．第１回現地踏査段階での提案【川グループ】

今回の現地踏査から見受けられた河川の特性を鑑みて、町民における河川の位置付け・安全な利用などについて提案する。

1)．拠点地区

現況の朱太川は周辺から堤防・河畔林によって隔絶され、近づきがたく、利用しにくい状況にあるように見える。河川へのアクセスを考慮した拠点を造ることにより、河川の多面的な利用がより推進されることになると考えられる。

拠点地区として最もふさわしいのは「湯の浜大橋」周辺ではないかと考えられる。ここは既に「浜中地区生活環境保全林」の整備が進み、いくつもの施設が整っている。これに隣接する大橋周辺を拠点とすることにより、両者の利用が相乗的に進み、また効率的な施設整備を計ることが期待できる。

2)．自然教育の場としての利用

大橋が横切っている朱太川の河川敷には丁度旧河道が残されており、湿生植物が生い

茂る湿原状態になっている。踏査時にはアオサギが採餌しておりアマツバメが飛び交っていた。

ここに木道等の観察路を設け、子供たちへの自然教育の場として整備する。旧河道の中には深みがある事も推定され、また効果的な教育のためのシナリオを作った上でのルート選びが必要であろう。

3). 視点場としての利用

先にも述べたように朱太川には全体を見渡せるような視点場が少ない。そのような場が少ないことは町民の川に親しむ意識に少なからず影響を与えているように思われる。視点場があれば朱太川を見るばかりでなく、そこに生える美しいエゾノキヌヤナギの河畔林を楽しむことができる。また後述する水面利用が増えれば川を見渡せる場が必要となってくる。

湯の浜大橋は中央部が高くなっており、より遠くを見渡す場として適しているが、その形状ゆえ通行車両にとっては見通しが悪く、また現状では車道だけであるため安心して景観を楽しむこともできない。大橋の上に歩道と、できればテラスを設けられれば、視点場としての利用が可能である。

4). 水面の利用

朱太川の下流は程々の水深と、ゆったりした流れ、静かな水面が揃っており、水遊びやカヌー･ボートなどの利用に最適である。しかし現状では河口周辺を除いて河岸に近づくことすら困難である。

河口から 1.5 キロ周辺の右岸側には副水路が現河道と分離する部分があり、大橋からここまで 500 メートルほどのアクセス道路と傾斜路を整備することによりカヌー･ボートの利用が可能になる。

更に流域連携をとって黒松内町からのカヌー下りコースを設定すれば、ここを終着駅として位置付けられる。

４．川以外の個人的な提案(森グループ・ファンクラブの皆様の御意見を参考に)

1). 道の駅の創設

・国道 229 号沿いに道の駅を整備する。駐車スペース・道路状況などを考慮しなければならないでしょうが、連携施設としては「佐藤家」、「ウィズコム」など。

・ここで魚介類・長芋などを販売する。

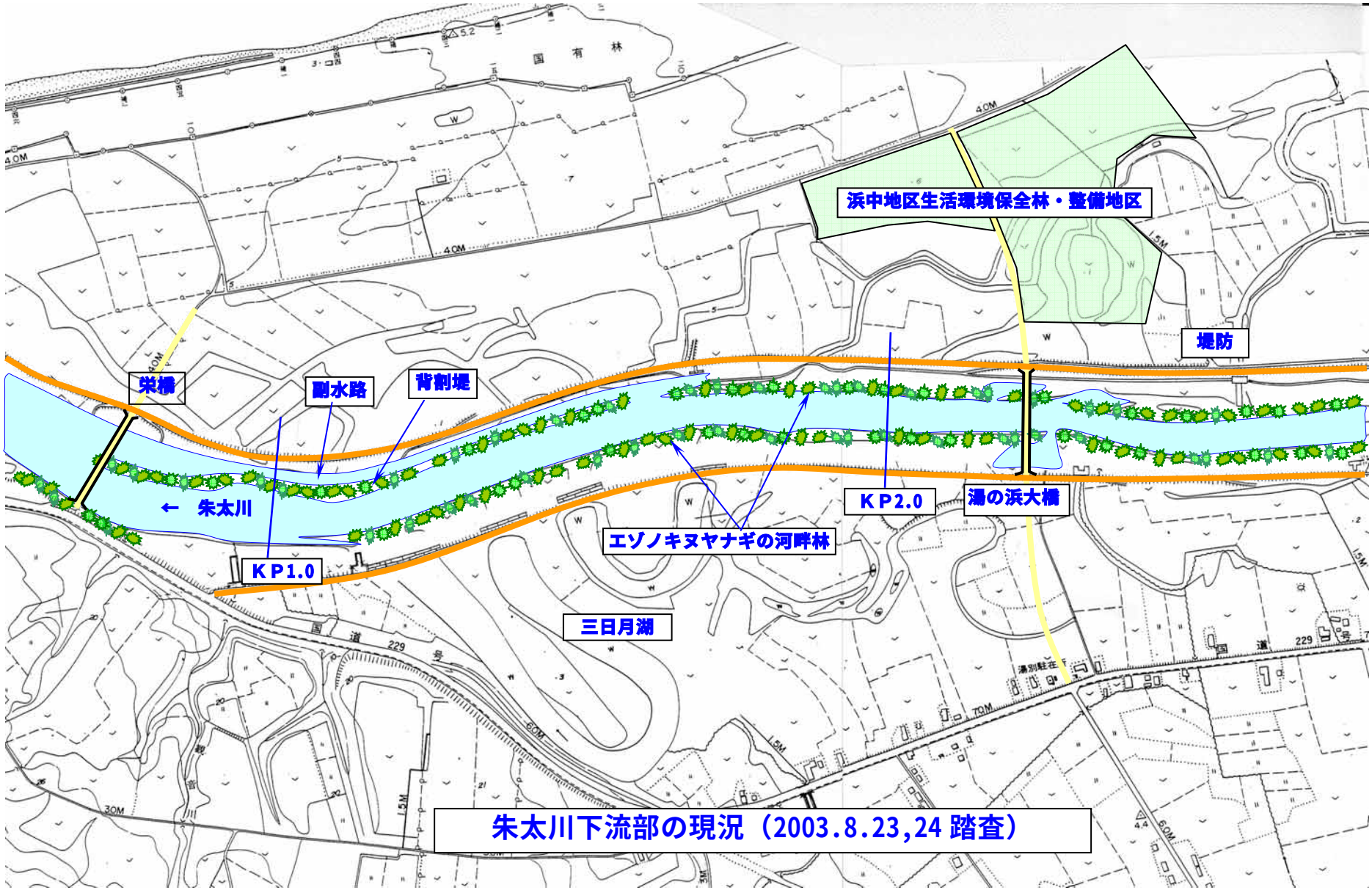
・「寿都温泉ゆべつのゆ」の案内と誘導を図る。

2). 磯谷牧場林道の展望台

・現在工事中の磯谷林道が完成した時点で頂上部(標高 314m 地点)に展望台を設ける。林道には「サンセット・スカイライン」なるネーミングをする。

・利用状況によっては季節的に売店を設ける。

・「この林道で夕陽を見た２人は必ず結ばれる」との噂を流す。



朱太川下流部の現況（2003.8.23,24 踏査）

2003.09.01

板垣恒夫・安田伸生

寿都町・美しい海作り研究【山グループ】
―現地調査報告―

1．はじめに

地域産業研究会地域活性化分科会の第 2 ステージでは、①これまでの議論の延長線上のテーマであること、②社会性があること、③寿都町から期待され、協力の得られるテーマであること、④技術士会の各専門分野が関わり易いこと、の条件を満たすテーマとして、表記の「寿都町・美しい海作り研究」が提案され、4 つの研究グループと寿都町ファンクラブで研究を進めることとなった。

今回の現地調査（踏査・観察）は 6 月～8 月に予定されていた合同現地調査であり、ここでは山グループが「歩いて・見てきた」観察結果の概況を報告します。併せて、この観察結果から今後山グループのやるべき方向を探ってみたい。

2．観察箇所および観察方法

調査は 2003 年 8 月 23 日午後～24 日午前に行いました。調査箇所は図-1 のとおりです（図は省略）。観察方法は、主要箇所については出現樹種・林相などの簡単な記録と現地写真撮影をおこない。その他については、地形図への観察箇所位置と現地写真撮影にとどめました。

参加者は、23 日午後は板垣恒夫、24 日午前は板垣恒夫・安田伸生（山グループ）、岡田操（川グループ）です。なお、24 日はじめの調査地「採石場高台」と「法人の森」には、（株）蛯沢組専務の蛯沢孝彦氏のご案内があり、海グループ、農地・都市グループ、寿都ファンクラブ（宮崎武志）の参加のもと、それぞれ専門性からの意見が出されていました。

3．観察地の概況

1)．幌別川・横澗橋：

沢部分のみ森林（河畔林）、急傾斜地、川底は岩盤、イタヤ－シナノキを主とする広葉樹林（樹高は 12m～17mで平均 15m・胸高直径は中小径木 14ｃｍ～30ｃｍ）、その他の出現樹種はオヒョウニレ・ヤナギ類・キリ・ギンドロ・クロマツ・カラマツなどです。周辺は雑草群落で、ススキ・ササ（クマイザサ）・オオイタドリ・ヨモギ・クズなどです。周辺の景観は、耕作放棄地で代表されます。

2)．美谷・民有林道美谷線：

① 林道終点付近の森林；ミズナラ・イタヤ－シナノキを主とする広葉樹林（樹高は 14m～18mで平均 16m・胸高直径は中小径木 18ｃｍ～40ｃｍ）、その他の出現樹

種はケヤマハンノキ・ホウノキ・ハリギリ・オヒョウニレ・ヤナギ類などです。周辺は雑草群落で、ササ（クマイザサ）・ヨツバヒヨドリ・エゾゴマナ・チシマアザミ・オオイタドリ・ヨモギなどです。

② 民有林の状況；造林地は中腹以下に広がり、トドマツ・カラマツによって占められています。風衝地でもあり、主風方向では枯れあがりが目立っています。風のないところは成長も普通の状況と思われます。林道切り取り斜面のある林道待避所からみた寿都町方向の景観はみごとでした。植生はササがほとんどで、その他にはススキ・ハギなどみられました。

③ 美谷林道入り口付近は、ギンドロ、ヤナギ、ニセアカシアの立地する森林で構成されています。美谷林道が幌別川に抜けて鮫取澗へのルートが開設されれば町有林を観察の森として位置付けることができます。

3)．白炭川・白炭橋（下白炭川・栄橋も調査）：

黒松内町で知られた代表的な河畔林であり、寿都町樽岸の樽岸小川河畔林との比較のために調査した。

ケヤマハンノキを主とする広葉樹林密林、エゾヤナギ、エゾノキヌヤナギが介在し、沢から離れるとオニクルミ、カンバ類などが多くなっています。ブナの小径木がみられました。ケヤマハンノキ林は河川の左右に広がり、樹高は15m～20mで平均17m・胸高直径は中小径木で18ｃｍ～30ｃｍの範囲でした。

4)．朱太川（湯の浜大橋）：

湯の浜大橋から上流・下流のヤナギ河畔林を観察した。周辺の開発の行き届いているところ、耕作放棄地も見られますが、景観上寿都のお勧めの場所かと思われました。

大橋上流右岸には、朱太川河畔林再生事業（住民参加による森づくり）により、生態学的混播法（北海道工業大学岡村教授提唱の自然林再生の方法）の考え方に基づいて地元の人々で植栽した（と思われる？）箇所があります。ヤナギを中心とし、ミズナラ、イタヤ、ハンノキ等の生育が見られます。

地元の人を中心として、植栽した樹木の継続観測や更なる自然林造成の取り組みができればいいと考えられます。

5)．浜中環境保全林

北海道が海岸林造成を行ってきた成功地であり、カシワは海岸林造成のため持ち込まれたもののようです。後背地にパークゴルフ場などの施設を配置し、整備していますが維持管理を上手にしないと秋から冬の日本海特有の暴風（飛砂の害）に悩まされる事になります。伐開は余程の注意が必要です。カシワの後背にはイタヤカエデやシナノキが成林しつつあり楽しみでもあります。

保全林内にはカシワ等の密林状態となっており、林床はササが密生しており、暗い感じがします。

強風との関係で伐開は慎重にすべきですが、歩道脇の刈り払い地には、カシワなど

の稚樹の更新が見られることから、林床のササ等の刈り払いを実施することは意味があると考えられます。

また、このエリアの森林は、造成された森林であり、自然（海岸や強風、砂など）と産業や生活などとの関わりを考えていく上でも貴重な場所と位置づけることができるが、保全林内の案内板は、位置図のみで、いわゆる「解説」が一切ないのが残念である。後志支庁や町などとの共同作業で案内板の充実を図ることができればいいと考えられる。

6)．浜中の朱太川河口

護岸で構築され、湯の浜大橋付近とは趣を異にしています。海岸にむかってのギンドロ（ウラジロハコヤナギ）はみごとで、暴風効果を発揮しているようです。ギンドロの裏側にはクロマツの林がありますが、枯れが目立っていて、手当しないといずれ消滅するようです。

7)．採石場高台

標高 103mの（有）寿都採石の高台からは、寿都町のほぼ全域を望むことができ、かつ寿都湾の景観、遠望すると積丹半島が勇姿をあらわにしています。左側には弁慶岬にむっかて、国有林を境とする町有林がひろがっています。

8)．樽岸小川河畔林：

「法人の森」への途中からの観察では、エゾイタヤ、シナノキ、ミズナラを主とし、カンバ類、オニクルミ、クワ、など介在する広葉樹林密林になります。河畔にはヤナギ、ケヤマハンノキ、ハルニレがみられます。下層植生はおおむねクマイザサによって占められ、大型草本がみられ、秋の花が咲き始めていました。法人の森を「町民の森」として考えた場合、途中景観（散策場所）からもこの河畔林は重要な位置を占めることになります。

9)．法人の森

法人の森「国有林分収育林契約分収林」は後志森林管理署 62 林班へ小班（１４．４ha）です。ここはブナを含む広葉樹林密林で、ミズナラ・シナノキ・イタヤが主要樹種になりますが、他樹種も多くみられました。中大径木林で、樹高は 16m～24mで平均 17m・胸高直径は中小径木で 26ｃｍ～60ｃｍの範囲でした。歩道が整備されていますので、知っている方の散策がみられるそうです。

将来、樽岸小川河畔林と連動し「町民の森」として考えたい。

理由は、

①寿都町で唯一のブナ林があること（月越山脈のブナ林）

②林道が整備されていること

③樹種・下層植生が豊富で教育の場としてふさわしいこと

④運動面からは「汗を流す」こと

ができることなどです。

10)．磯谷牧場

磯谷町横澗の旧道で、浄恩学園前を通過、町有林道にはいり、204mの尾根に到達すると日本海を望む見事な展望が開け、また、磯谷町丸山（標高 140m）を中心にした樹海が広がっています。虫食い的に人工林が散在しますが、ほとんどはミズナラ、イタヤ、シナノキを中心とする広葉樹林で占められています。さらに林道終点近くの尾根線標高 314mの磯谷牧場からの眺めは右に、尻別川とその周辺の耕地が眼にせまり、日本海側には水平線、地平線が寿都の海岸線にマッチして、すばらしい景観でした。

11). 海岸線の森林について：

横澗から実谷、有戸にかけての国道２２９号線沿いの森林状況をみると、国道や海岸沿い民家の保全のため治山工事（山腹工事）を実施し、ヤナギ、ハンノキ、ギンドロなどの植栽の結果一定の森林状態となっているところと、道路法面などで、草本緑化にとどまっているところがある。

強風や塩害といった厳しい条件下ではあるが、海岸線の海と一体となった景観を創り出す視点から、海岸線の森林造成について検討してみる価値はある。

４．山グループの今後の課題

この調査で具体的な寿都町の自然がほんの少し見えてきました。

山グループの課題は

① 寿都町の森林自然の概況を把握しそれに基づき

② 「町民の森」構想を具体化し

③ 対外的に寿都町の「これまで知られていない場面」を明らかにして、

町のレベルアップをはかることにあります。

また、磯谷地区の自然、特に小河川をとりまく森林状況を調べ、この森林自然が寿都町の美しい海にどのように貢献しているのか？？を、明らかにすることです。

更に、浜中生活環境保全林、朱太川河畔林造成、朱太川を繋ぎ、浜中エリアを中心とした「海・川・森」そしてパークゴルフや温泉といった要素も加えた、地元の人々による継続的な観察会や植樹活動などのイベントを仕掛けられないか、検討することも考えてみたい。（この場合は、山グループのみではなく全てのグループの共同作業となる。）

５．おわりに

山グループの方向が見えてきましたが、これを具体的な報告書にするには、今後、現地調査が必要になります。活性化分科会の支援・協力を期待して最初の報告とします。